

平成24年度
事務事業評価結果一覧

平成25年3月

鹿児島県 いちき串木野市

1. 行政評価とは

行政の行っている仕事が、「その費用に見合った効果や成果を出しているか」、「無駄や重複になっていないか」などといった視点から行政の活動を見直し、改善していく取り組みです。

2. 行政評価で何をを目指すのか

- ① 成果の検証を行い、限られた資源（人材・物資・財源・時間）を有効的に活用します。
- ② 市が行っている事業や事務を、市民の皆さんに説明する責任を果たし、情報の共有を図ります。
- ③ 職員の意識改革を図り、事業の選択や組織の変革に取り組みます。

3. 評価件数

平成24年度評価予定の16事業のうち、団体運営補助事業の3事業を除く13事業について公表いたします。

4. 評価結果

	A（適切）	B（改善の余地あり）		C（不適切）		合 計
	現状のまま継続	見直しの上で継続	休止・廃止	見直しの上で継続	休止・廃止	
一次評価	11	2	0	0	0	13
二次評価	12	1	0	0	0	13

平成24年度事務事業評価結果一覧

[評価の目安 …… A : 適切 B : 改善の余地あり C : 不適切]

番号	事務事業名	所管課	事務事業の概要	直接事業費		財源	主な活動指標		主な成果指標		一次評価	今後の方向性 評価の根拠、理由	二次評価	今後の方向性 意見
				人件費	総事業費 (千円)		指標名	実績	指標名	実績				
1	農業機械銀行推進事業	農政課	地域農業の振興と農業機械の効率的利用を推進し、農作業の受託事業や堆肥散布等による労働不足の補完を進め、高齢者等でも可能な農業の省力化を図るためJAで行う農業機械銀行の農作業受託組織におけるオペレーターの人件費に対し補助を行う。	193	市	受託におけるオペレーター人件費補助	193千円 (58日× 10千円× 1/3)	受委託日数	58件	A	現状のまま継続 高齢者等の機械作業は、危険性を伴う為、事業推進を実施しながら成果につなげていく必要があり現状のまま継続していく。	A	現状のまま継続 農作業の軽減に寄るとともに地域農業の振興と農業機械の効率的な利用を推進するため、現状のまま継続	
				375				面積	12.45ha					
				568				人数	98人					
2	集落営農奨励補助事業	農政課	地域農業の維持・発展と担い手農家の育成確保を図るため、農地、農業機械、施設等を効率的に活用し、農用地の集団化による集落営農活動に意欲的に取り組む団体の設立に必要な経費に対し補助を行う	0	市	設立組織数	0	構成世帯数	—	A	現状のまま継続 地元と市と県が協力して推進する集落営農組織が設立するにあたり、経費の一部を補助金とする現在の方法は、地域の活性化や集落営農組織の初年度の資金繰りが厳しい時期への効果的な経費であることから、今後も推進。	A	現状のまま継続 農業の担い手が減少する中、農地が荒廃しないように地域を支援する集落営農組織の設立は必要のため現状のまま継続	
				0			金額		0					
				0										
3	焼酎麴用米交付金事業	農政課	各生産年における10a当たりの県内主食用米生産者標準収入額と加工用米(焼酎麴用米)生産者標準収入額の差額を限度として予算で定める額の範囲内で、生産者に交付する。	1,405	市	補助対象面積 (対象農家)	11.86ha	補助金額 (10a当り)	1,405千円	A	現状のまま継続 加工用米(焼酎麴用米)生産者の経営安定化と所得向上と併せて、水田の有効活用策として加工用米(焼酎麴用米)の作付推進を図り、また食のまちづくり対策の一環として、本市特産焼酎への地元産米を原料用麴米として活用する本事業は、継続することが望ましい。	A	現状のまま継続 不耕作による農地の荒廃が進む中で、水田の有効活用策及び食のまちづくりの推進として地元産米の活用という点から、加工用米を原料用麴米として活用することで農家の所得向上にも繋がるため継続が必要である。	
				750			37戸		11,846円					
				2,155										
4	畜産削減助成事業	農政課	削減をすることで、飼養管理の向上はもとより、体型の維持、肉質の向上が図られることによる畜産農家の所得向上と経営安定が図られるから、畜産農家の飼養する肉用牛の削減に係る経費を、予算の範囲内で補助を実施する。	0	市	①1頭切支払額 ②日当支払額	0	①1頭切支払頭数 ②日当支払件数	0	A	現状のまま継続 子牛生産の母牛の平均飼養期間は長い農家で15年、肥育農家は約2年で出荷する中で、削減を実施することで体型の維持、肉質の向上が図られることによる所得向上が見込まれるため継続が必要な事業である。	A	現状のまま継続 飼養管理の一環である削減については肉用牛の肉質向上はもとより、畜産農家の所得向上の為には必要な作業であり、畜産農家の景気浮揚策としての経費一部負担は必要と思われる。	
				0			0		0					
				0										

番号	事務事業名	所管課	事務事業の概要	直接事業費		財源	主な活動指標		主な成果指標		一次評価	今後の方向性 評価の根拠、理由	二次評価	今後の方向性 意見		
				人件費	総事業費 (千円)		指標名	実績	指標名	実績						
5	林業就労改善推進事業	農政課	林業就業者の福利厚生充実や技術・技能の向上、労働安全衛生の充実等を図る為、対象経費の1/3以内及び1/2以内の予算で定める額を助成する。	329	市	助成額	246,060円	林業就労者 (市内在住の森林組合作業員)	11名	A	現状のまま継続 廃止した場合、本市からの雇用が無くなったり、また今後新規の通年雇用がなくなることも懸念されるため、必要な事業と考える。	A	現状のまま継続 林業就労者の雇用の安定と労働安全衛生の充実を図るために継続すべき事業である。			
				75										社会保険等 (1/3以内)		
				404										健康管理等 (1/2以内)		
6 (9)	公園維持事業	土木課	公園広場の草払いや遊具施設の点検作業を定期的に行うことで、公園の適正な維持管理を行う。	12,208	市	トイレ清掃	11公園 各50回	修繕箇所	花川4麓ふれあい3 なぎさ2 かもめ2 他11	A	現状のまま継続 日頃から市民の憩いの場として、安心安全に広場を提供出来るように管理する必要がある。よって、今後も重要な業務であり、引き続き実施する必要がある。	B	見直しの上で継続 指定管理公園へ移行できない公園については、民間委託への検討も必要である。			
				750										除草等清掃	13公園	トイレ関係8 水飲み場関係5 照明3 植樹関係4 他2
				12,958										実働時間	1829時間	
7 (10)	科学の祭典	学校教育課	小・中・高等学校の教員や有志の方々が実験講師となって、参加型の実験・工作を繰り広げ、青少年に科学の楽しさを体験させる。	328	市	出展 ブース数	13ブース	小中学生来場者数/ 小中学生児童生徒数	小中学生 307名 (市内小中学生の13.0%) 幼児83名 一般188名 合計578名	B	見直しの上で継続 現在の少ない予算での継続は、事業の運営が難しい状況である。 アンケート結果で継続の声が多いことから、現状のまま継続していきたいところであるが、ボランティアで手伝ってくれているスタッフもいるため、謝金等の予算を増額したいところである。	A	現状のまま継続 小中学生を対象に科学の楽しさを伝えることを目的とした事業であり、成果も上がっているため現状のまま継続が望ましい。			
				375												
				703												
8 (11)	母親学級開設委託事務事業	社会教育課	子育てや家庭教育に関する相談や学習機会、情報提供などを通して、子育てを地域ぐるみで支援し、親などが安心して子育てに取り組める環境を整備するため、「母親セミナー」及び「乳幼児を持つ母親学級」の開設を各地区婦人会に委託し、子育て学習会、レクリエーション、親子教室、野外活動などを月1回程度実施する。	203	市	講座開設状況	①15講座 ②139回	受講状況 参加者数	2,974人	A	現状のまま継続 各地区で母親学級を開設し、子育てや家庭教育の相談や学習機会、情報提供などを通して、子育てを支援することは大切なことであり、悩みを抱え孤立しがちな家庭など様々な課題を抱えた家庭があることから、今後も家庭教育支援事業や学校・企業等と連携し進めていくことが重要である。	A	現状のまま継続 身近な地域で母親学級を開設し、子育てや家庭教育の相談や学習機会、情報提供などを通して、子育てを支援することは大切なことであり、悩みを抱え孤立しがちな家庭など様々な課題を抱えた家庭があることから、今後も家庭教育支援事業や学校・企業等と連携し進める環境を整備する必要がある。			
				75												
				278												

番号	事務事業名	所管課	事務事業の概要	直接事業費		財源	主な活動指標		主な成果指標		一次評価	今後の方向性 評価の根拠、理由	二次評価	今後の方向性 意見
				人件費	総事業費 (千円)		指標名	実績	指標名	実績				
9 (12)	学校支援事業	社会教育課	地域コーディネーターを採用し、学校支援の活動が計画的・継続的に進められるよう学校と地域(学校支援ボランティア)との連絡調整を行う。支援内容をレベル1から5まで設定し、地域住民・企業等から学校支援ボランティアを募集し登録する。ボランティアは、自分が選択したレベルに応じ、学習活動や部活動、環境整備、安全確保、学校行事等への支援を行う。学校支援実行委員会を開催し、事業の推進を図り、学校・家庭・地域・企業が一体となって、地域ぐるみで支援を行う。	1,276	市	コーディネーターの設置 1人	支援回数 949回	支援人員 1,433人	A	現状のまま継続 地域住民が教育活動に関わることで、子どもたちの多様な体験の機会が広がり、きめ細やかな指導ができていく。また、地域住民にとっても、学習の成果を生かせる場となり生きがいづくりになることから、継続して実施していく必要がある。今後も、地域コーディネーターを設置し、学校と地域の連絡調整を行い、学校支援の活動を計画的・継続的に実施していく必要がある。	A	現状のまま継続 「いちき串木野市の未来」を担う子どもたちを健やかに育てるために、今後も、地域コーディネーターを設置し、学校と地域の連絡調整を行い、学校支援の活動を計画的・継続的に実施する必要がある。また、より効果的な支援をするために、学校が必要とする支援内容の具体的な把握やボランティアの支援分野の拡大など、学校・地域との連携をさらに進めながら実施していく必要がある。		
				375									①139名 ②42社	
				1,651										
10 (13)	生涯学習講座開設事業	社会教育課	市民がいつでも、どこでも、学ぶことができ、学習した成果を地域社会に生かすことのできる生涯学習社会の実現を図るため、社会教育指導員を2名採用し、市民の学習ニーズの調査等を行い、条例公民館である中央公民館、市来地域公民館を中心に講座を開設し運営する。	2,490	市	講座開設状況 ①講座数 ②開催数 ③募集人員	受講状況 ①応募者数 ②受講者数 ③出席率	①456人 ②413人 ③90%	A	現状のまま継続 市民の学びを推進し、いつでも、どこでも、誰でも学べる環境をつくるためには、必要な事業であることから、今後も市民の学習ニーズの調査を行いながら、実施していく必要がある。	A	現状のまま継続 市民の学びを推進し、いつでも、どこでも、誰でも学べる環境をつくるためには、必要な事業であることから、今後も市民の学習ニーズの調査を行いながら、実施していく必要がある。		
				75									①21講座 ②190回 ③476人	
				2,565										
11 (14)	高齢大学開設事業	社会教育課	高齢者が、社会環境の変化に対応する能力と心身の健康を培うとともに、健全で豊かな生活を送るために、生涯学習の一環として、身近な場所での学習の機会を提供するため、社会教育指導員を採用し、中央公民館、市来地域公民館、各地区交流センター等で、5月から3月までの間、毎月1回、健康・福祉・一般教養・身近な法律・レクリエーション・趣味などの学習講座を高齢者を対象に開講する。	1,710	市	講座開設状況 ①講座数 ②開催数	受講状況 ①受講者数 ②出席率	①772人 ②59%	A	現状のまま継続 生涯学習の一環として、身近な地域で講座を開設することは、高齢者の教養の向上と、生きがいづくりに繋がることから、引き続き実施していく必要があるが、募集等の広報を工夫し、より多くの高齢者の方が受講できるように取り組む必要がある。	A	現状のまま継続 生涯学習の一環として、身近な地域で講座を開設することは、高齢者の教養の向上と、生きがいづくりに繋がることから、講座生の募集等を工夫し、引き続き実施していく必要がある。		
				75									①12学級 ②127回	
				1,785										
12 (15)	週末支援事業(青松塾)	社会教育課	「いちき串木野市の未来」を担う子ども達を鹿児島大学教育学部の協力のもと自学学習活動により、自ら学ぶ習慣を身に付けるとともに、体験活動を通してふるさとの自然や歴史に触れ、豊かな心を育てるため、毎週土曜日の14:00~16:00(長期休業日と第3土曜日を除く)にアクアホール多目的室を主会場として、毎年23回程度の自学学習・体験学習を行う。市内公立小・中学校経由で塾生を募集し決定する、また鹿児島大学教育学部を通して、学生ボランティア(講師)の募集を行う。	401	市・その他	運営状況 ①塾生数 ②開催回数 ③ボランティア数(鹿大生)	感想文内容 ①自学学習の習慣が付いた数 ②体験活動の良さを理解した数	①9/22=41% ②10/22=45%	B	見直しの上で継続 異年齢の集団で自学学習や体験学習を実施することは、「いちき串木野市の未来」を担う子どもたちの成長に必要なことである。しかし、経済的理由等で青松塾に参加できない子どももいることから、公平な学習の機会を提供するためには、受益者負担金を見直し実施していく必要があると思われる。	A	現状のまま継続 「いちき串木野市の未来」を担う子ども達の育成において、自学学習及び体験学習の機会が必要であり、事業を継続していく必要がある。負担金については、妥当と考える。		
				1,500									①22名 ②22回 ③17名	
				1,901										

番号	事務事業名	所管課	事務事業の概要	直接事業費		財源	主な活動指標		主な成果指標		一次評価	今後の方向性 評価の根拠、理由	二次評価	今後の方向性 意見	
				人件費	総事業費 (千円)		指標名	実績	指標名	実績					
				13 (16)	ジュニア・リーダー育成研修補助事業		社会教育課	ジュニアリーダーとしての役割や働きについての認識を深めるとともに、様々な体験活動を通して、リーダーとしての資質を養うため、市内の中学校・高校に募集案内チラシを配布し、会員募集を行う。 会員を中心に学習活動、体験活動、ボランティア活動を行い、子ども会大会等でレクリエーションの指導をする。	155	750	市・その他	①会員数 ②定例会数 ③研修会参加回数 (参加者数)	①28名(年度末現在) ②9回 ③8回 (16人)	指導者・ボランティア従事者数 ①子ども会大会 ②成人式 ③地域行事	①9人 ②8人 ③8人
											A	11	適切	12	適切
											B	2	改善の余地あり	1	改善の余地あり
											C	0	不適切	0	不適切
											合計	13		13	
											事務事業数	13			

今後の方向性			
一次評価		二次評価	
11	現状のまま継続	12	現状のまま継続
2	見直しの上で継続	1	見直しの上で継続
0	休止	0	休止
0	廃止	0	廃止
13	合計	13	合計